

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	児童デイサービス あっぷつぶ					公表日	2025年3月31日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6					
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	2	子ども達の利用人数によっては、大人の人数が多すぎないように配慮している。			
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		子ども達自身で判断したり気づいたりできるよう視覚的なサポートをしている。			
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		限られた空間を子ども達の活動に合わせた導線にしている。			
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6					
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		毎日（午前と午後）、子ども達が降所した後に必ずその時間を作り、職員でミーティングをしていること。			
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6					
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	3	毎日（午前と午後）、子ども達が降所した後に必ずその時間を作り、職員でミーティングをしていること。			
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	4	第三者評価を外部に委託していないため。			
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		職員が受講したいと希望した研修を受講できる。			
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		子ども達の様子やどんな目的で取り組んでいるのか、ホームページ上の記事で配信されている。			
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		言語発達検査、遠城寺式、JSI-mini等の標準化されたツールを用いて分析し、支援計画に盛り込んでいる。			
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		毎日のミーティングで職員との共通理解の時間を設け、検討されている。			
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		計画に沿えるように毎日ミーティングをしている。			
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		言語発達検査、遠城寺式、JSI-mini等の標準化されたツールと日々の行動観察を併用している。			
適切な支援の提供	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		総合的に子ども達の支援ができるように考え、その子どもにあった支援内容に設定している。			
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		定期的に会議を行い、活動プログラムの月間予定を検討している。			
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		月間予定を元に、日々のミーティングで利用児童に合わせて調整している。			
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		子どもの状況に応じて、必要な場面や必要な状態の時は個別と集団の活動をうまく組み合わせて支援している。			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	児童デイサービス あっぷつぶ					
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
関係機関や保護者との連携	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		毎日（午前と午後）、子ども達が登所てくる前に細かい打合せをし、その日に利用する子ども達の状況に合わせて活動内容を変えたり、担当を決めたりしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		毎日（午前と午後）、子ども達が降所した後に必ずその時間を作り、職員でミーティングをしていること。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		子ども達の降所後、記録を残す時間を作り、翌日以降の支援に繋げている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
児童発達支援事業所と他の機関との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		必要に応じて、児童発達支援管理責任者以外の職員も参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		事業所での様子を記載し、情報提供書の作成等を行っている。また、医療機関を受診する際には日々の子どもの様子をまとめ、保護者に提供している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		幼稚園や学校等の見学への同行支援、支援会議等を実施している。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		就学相談説明会の実施。 支援会議の実施や情報提供書を作成している。	
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6		必要に応じて、子ども発達支援センターと情報共有をし連携を図っている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	3	利用児童は、幼稚園や保育所等と併行利用しているため、事業所として機会は設けていない。	
	33	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		送迎時に直接伝えたり、話を聞いたりできる状況である。他にLINEや電話で利用時の様子を伝えたり、時には写真を添付して理解しやすいように工夫している。	
児童発達支援計画の作成・実施	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		就学相談説明会やちよこっとあっぷつぶで情報提供等を実施。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		見学体験の際や利用契約時に必ず説明している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		保護者としてどのように成長してもらいたいか、本人はどんな困りごとを持っているのかの確認をしている。	
児童発達支援計画の見直し	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		理解し同意が得られるような工夫として検査結果や日々の課題、成長した面も合わせて説明している。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	児童デイサービス あっぷつぶ				公表日	2025年3月31日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
保護者への説明等	38 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		LINEや電話、送迎時での対面で保護者の悩みや不安など、都度応じている。		
	39 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6		ちよこっとあっぷつぶで保護者同士で交流する機会を設けている。また、利用児童の兄弟姉妹が活動に参加できる機会を設けている。		
	40 こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		相談ごとがあった場合は、なるべく優先して対応している。		
	41 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		毎週の活動内容や月間予定等をホームページで定期的に発信している。		
	42 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		ホームページ等への写真の掲載時は、顔や名前がわからないようにしている。		
	43 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		言葉で意思疎通が難しい場合、その子どもが伝えられる手段（絵や写真などのカード）を準備し活用している。		
	44 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6		近隣の商店やスーパーでの買い物、夏祭りやハロウィン行事等で交流する機会を設けている。また、同じアパートの住人に声をかけ、遊びに来られるようにしている。		
非常時等の対応	45 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		定期的に、避難訓練、防災スタンプラリー、感染症対策（手洗いチェック）等を実施している。		
	46 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		災害時に備え、想定した場面でのSOS発信ができるよう公衆電話を使う体験をしてもらっている。		
	47 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		見学体験や利用契約時に確認している。		
	48 食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	1	医師の指示書が必要な利用児童がいないため、保護者から聞いて対応している。		
	49 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6				
	50 こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6				
	51 ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6				
	52 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		虐待防止の観点から、職員と子どもが一人ずつになる時間を最低限度にし、子ども達の様子がわかるようドアなども開放したままになっている。		
	53 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	1	対象となる利用者がいない。		